

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木 1階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	令和3年11月27日	評価結果市町村受理日	令和4年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600335-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600335-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の個性を大事にし、一方的な支援ではなく、入居者と一緒にする、一緒に見る、一緒に聞く、話し合う等、常に何らかの働きかけをする支援を心がけています。いすの木の正面には高台になった公園があり、施設に居ながらにして季節の移り変わりを感じる事が出来、色々な野生動物も施設周りに姿を現し、今年はその公園で無観客の花火大会もあり入居者を楽しませてくれました。いすの木の中庭と裏庭に野菜を植え、収穫し、調理をして食べ、新型コロナウイルス感染防止規制の為、家族との面会や外出もままならない中で何かしらの楽しみを持てるように工夫をして生活しています。また、その様子をいすの木便り等で家族にお知らせし家族との繋がりが大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームいすの木」は、幹線道路沿いの住宅地に位置し向かい側に市立病院や一角には消防住吉分団がある。胆振東部地震の際、近隣商店から食糧供給があり業務継続の協力が得られた。管理者は住民の高齢福祉相談に応じ事業所資源を還元している。地域包括支援センター入居相談は困難事例を問わず受け入れ、生活困難者へ手を差し伸べ生活の再構築を応援する姿勢で運営に臨んでいる。感染症予防対策で例年の外部との数々の交流や外出支援は自粛となっている。建物は2階建てで中庭があり回廊式の構造でリビング、ダイニング、和室の共用空間3か所が距離を持って独立した広い造りである。利用者は好きな場所で思い思いに過ごしており、それぞれの場所の設えも温かみがある。冬場も散歩や介助、歩行者などで中庭に訪れる鳥を愛でながら回廊を使って歩行運動をしている。春から秋口にかけて利用者が中庭の畑作業に取り組める環境を整えている。敬老会は職員手作りの衣装や祝膳、生花で寿の節目を盛り上げている。職員が把握したありのままの「利用者の声・呟き・状態像」を毎日ノートに書き、思いの把握と状況分析への根拠として情報を蓄積している。利用者とも視線を合わせた協力行動介助により更衣ができなかった利用者が上衣部分が可能になっている。職員の利用者への接遇と生活応援は本人との信頼関係に結びつき安定した生活に資している。地域密着型サービスのエキスパート的存在の事業所の一つである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所には職員全員で考えた理念があり、事務所の壁や名札の裏等、常に目に付くところに付けてあり、毎日就業前にそれぞれが確認し理念に添った支援を心掛けている	数年前に理念を見直し、文言を分かりやすくし4項目に纏めている。事業所内要所への掲示や利用契約時に家族へ説明している。介護計画に理念を盛り込み、実践が理念に基づいたものとなるよう日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加や施設行事への町内会の人達の参加はずっと行って来たが、ここ2年程は行事自体が中止になっている為交流していない、毎月25日に町内会の廃品回収には段ボール等に廃品を提供している	感染対策に伴う制限下であり、町内会行事への参加やボランティアの来訪、看護実習生の受け入れなど、これまで実施してきた交流は自粛となっている。地域住民からは、高齢福祉に関わる相談がし易い事業所として頼りにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達が認知症の人達を理解していただける様に施設で勉強会等を行っていたが昨年より行っていないが地域の人達が認知症に限らず電話等で相談や問い合わせが出来る様に町内会に働きかけている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催していたが昨年3月以降開催出来ていない為、運営推進会議に出席いただいていた人達に現況報告を書面でお送りし会議に代えさせていただいている、意見やアドバイスは電話や書面で受けておりサービスに生かしている	2か月に1度事業所の現況報告を書面化し、全家族を含む運営推進会議メンバーへ送付している。参集しての開催は見送られているのでメンバー等から意見が得られるように書面に一文を添え、折々の機会にて意見を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の介護福祉課の担当者に出席いただいていたが、昨年より運営推進会議を中止している為、現況報告を送らせていただき、その上でアドバイスや色々な情報をメールや電話でいただいている	市介護福祉課は、新型コロナウイルス感染症予防に係り、「面会制限による臨時的な取り扱い」の事項を定め、認定調査や区分変更などの申請や諸々の提出に関する措置を行った。担当者と管理者は主としてメールや書面でのやり取りを軸に連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員が社内外の研修に参加していたが現在はWEB研修やeラーニング等での様な事が身体拘束になるのか研修を行い身体拘束をしないケアを実践している	身体拘束等の適正化のための指針を定め、不適切ケア防止委員会を定期開催している。職員個々にこれらに係る自己点検シート(チェックリスト)に取り組んでいる。グループワークにて事例検討を行い、ケアの検証や振り返りを行っている。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待が行われる状況はどんな時かを検証している、虐待につながる職員の業務上でのストレスについても本社からのアンケート調査や相談窓口がある		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで成年後見人制度を利用していた入居者がいた為、成年後見人制度については職員全員が理解している、日常生活自立支援事業についても市の介護福祉課や市の広報誌等から情報を得ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には本人と家族には十分な説明をし納得いただいた上で契約をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望は日々の生活支援の中で聞いたり、自分の希望をうまく伝えられない入居者からは行動等から把握している。家族からの要望は常時どんな些細な事でも聞き入れている	制限下であり利用者の外出に関する要望には対応が難しい状況であるが可能なものは随時希望に応じている。家族へは計画作成時に本人の状況を書面で発送したり、事業所便りや電話等で知らせている。遠方の家族の意向に応じ、利用者の様子を詳しく記した手紙を送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は業務の中や、月1回のカンファレンス会議の時に意見交換や提案を聞き入れていたが現在カンファレンス会議は中止している、毎日の朝晩の申し送り時に聞き業務に反映させている	勤務時間帯について現場職員と話し合い見直しを行った。畑に植える野菜や行事での作成物、利用者の困り事について職員から意見や提案が出され、一緒に話し合いながら調整している。日常的に職員から意見を聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間は会社規定があるが勤務形態、シフトの変更、希望休みはできるだけ聞き入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が出来るだけ研修等に参加するための勤務の調整、外部研修の助成もあり、職員が自分に必要な研修に参加しスキルアップが出来る様に支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、管理者、ケアマネ研修、他事業所訪問等で交流をしながらいろいろな情報を得てサービス向上に役立てていたが、昨年より交流は出来ていない、WEB研修等に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人の面接時に今までの生活状況、現在困っている事、これからどのような生活を望んでいるかを聴き出来るだけ本人の望む生活を実現出来る様に努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の面談時に家族の要望、本人と家族の関係性も含め家族の要望が本人の要望と相反するものでない限り聞き入れ、家族の気持ちも大切に家族の協力を得ながら支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの聞き取りから得た情報をもとに生活歴、以前利用していたサービス事業所、かかりつけ医療機関からの情報等から本人が必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とスタッフは家族という認識を持ち一方的な介護を提供するのではなく家族の一員として入居者全員にそれぞれ出来る事で役割を持っていただき共に生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	貸し切りバスでのドライブ、敬老会、クリスマス会と年に3回家族参加型の施設行事を開催していたが昨年の春より新型コロナウイルス感染防止のため行事への家族の参加は中止している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会は時間に関係なく受け入れていたが昨年からの面会制限のために面会は禁止されていた、徐々にかぞくの面会は緩和されている、	家族以外の訪問は制限中であるが、家族との面会は感染対策を講じ条件付きで再開されている。病院受診から戻った際に「ただいま」と挨拶があり事業所が馴染みの住処になっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一緒に過ごせる場所が施設内に数か所ありほとんどの入居者が日中は談話室や食堂でテレビを観られたり話をして過ごされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者家族との関わりは多くあり、外出ついでに立ち寄りられたり、自身や知人の相談事も気軽に聞けると電話を下さったり、施設周りの清掃を手伝ってくださったりと良い関係が続いている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望は最優先に考えて支援をしている、言葉で意思を伝えられない入居者にはその動きや表情からできるだけ本人の意向を汲む努力をしている	言葉での表出が困難な利用者では、急に立ち上がったたりいつもと違う行動をした時に、不安や困っている事の有無についてその場で検討している。朝起こしに行った時の様子からもどうしたいかを見極めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りでその人の今までの生活環境、馴染みの物、生活に対するこだわりを把握し、これからはどの様な生活を望んでいるのかを聞き意向に添った支援を提供する努力をしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的な状態は毎日のバイタル測定や食事の摂取量などから把握し精神面ではその日の言動や様子から把握しその状態にあった支援をしている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の支援の中で本人の意向を聞き面会時や電話等で家族の希望を聞き入れ、昨年より全体ケアカンファレンスは中止しているが毎日の朝夕の申し送り時にミニカンファレンスを行い職員間の情報共有や意見交換をし介護計画書に反映させている	利用者1人ひとりの行動と言葉をノートに記し暮らしの情報を蓄積している。サービス担当者会議でモニタリングを行い計画評価の根拠を明確にし、本人・家族の意見や意向も示し今後の対応を検討している。アセスメントは本人状況・意欲・介護の状況を35項目に渡り定期的に分析し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者一人一人の介護記録をiパットに細かく入力しており、業務日誌や連絡ノートで職員間で共有し介護計画を作成し職員全員が統一した支援を行っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的なサービスはもとより、個人的な買い物や家族の都合により出来なくなった病院の受診付き添い送迎等その時々で柔軟に対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ずっと地域の人達や外部のボランティアの訪問をおこなっていたが昨年春より面会や外出の規制があり交流は行っていない			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前からのかかりつけ医に情報を提供し、連携を図り、かかりつけ医のいない入居者や通院が困難な入居者には在宅医療等につなげ入居者が適切な医療を受けられる様に支援している	協力医療機関による在宅診療が可能であり、利用開始前のかかりつけ医による受診も可能である。受診は家族対応であるが適宜職員も同行している。受診時にバイタルや生活の様子を記した経過記録の情報を提供している。歯科往診は月2回実施されている。		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月2回、連携病院から看護師の訪問があり、入居者の健康チェックやその時に応じた身体的なアドバイスをいただいていたが、昨年春より訪問看護は中止している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時はそれまでの身体的状態や生活状況等を情報提供し退院時にはこれからのケアについて指示を受けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した時や終末期にはどのようなケアを望んでいるか本人、家族と話し合いを持っている。また、身体的状況に応じて医療機関や他施設を紹介している	契約書にご利用者様が重度化した場合の対応に係る指針を定め、その中に看取り指針の条文を明示し同意を得ている。事業所生活の継続の可否は医師の判断や意見を基に家族と今後の方針を相談し決定しており、他機関への移行支援にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前回の目標事項に職員全員の救急救命講習受講があったが未だに受けられていない講習が中止になっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、色々な災害を想定し避難訓練を行っている。いつもは消防署員立ち合いのもと地域住民や家族にも参加をしていただき行っていたが昨年から新型肺炎規制の為消防署に届け出後、施設職員で行っている	令和3年5月に日中想定、11月に夜間想定で通報模擬訓練を兼ね火災避難訓練を実施した。事業所平面図に車椅子利用有無や避難方法を示し訓練に臨んでいる。地域住民の参加は制限下により見送られているが、緊急時に応援が得られる態勢である。	自然災害の種別や被害の大小によっては事業所内に留まる場合が想定される。業務継続に係り、特に冬季間における災害備蓄品が現状では不足している状況であるので、法人と連携しその確保に期待したい。また、車椅子での避難誘導の対策を強化する意向であるので実現に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にはそれぞれ個室がありプライバシーを守ることが出来るが職員は特に排泄に関する言葉掛けの時は他入居者に気づかれぬ様に注意している	職員は法人のeラーニングで接遇を学び、節度を持って利用者に話しかけ、慣れあいにならないような対応で人格を尊重している。個人記録等の保管は他者の目につかないよう配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望に添ったケアを心掛けており職員の意見を押し付ける事なく自己決定出来る様な働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のその日の状態やペースに合わせて食事の時間や入浴の時間は柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容は出来るだけ本人の決定を尊重しているが自分で決められない時や季節に合わない服装をしている時には声掛けし一緒に着替えをしている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本社の管理栄養士が作成したメニューに従って調理しているが、入居者一人一人の好みやその日の状態によりメニュー、調理方法、食材を変えている、下ごしらえは出来る入居者に手伝っていただいている	日頃から何が食べたいか聞きながら、誕生日や季節行事のない月でも出前や仕出し料理を注文し、毎月楽しい食事会を開いている。畑で収穫する野菜も食材に取り入れ南瓜団子や卵味噌などを調理し、利用者の嚥下状態に合わせて提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は一人一人、毎日記録しており必要摂取量が摂れる様にその日の体調や好みに合わせて提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前、毎食後に必ず口腔ケアをさせていただいている、自力で出来ない入居者には職員が介助で行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者の排泄パターンを職員全員が把握している、失禁が多く紙パンツを利用していた入居者に紙パンツをあえて中止し、布パンツに変更したところ失禁が少なくなった等自立に向けての取り組みも行っている	利用者ごとの排泄記録を検討し、自立排泄のためのケアを行い、失禁を減らしている。車椅子を利用している利用者も2人介助で便座に腰かけることで、日中帯は全員がトイレで自然排泄が出来るように支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数、時間、便形状等は記録しており、入居者の状態に合わせ長期間排便がみられない時は水分量の調整や医師から処方された下剤と併用している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後に行っているが、入居者のその日の体調や希望する時間には柔軟に対応している、また、入浴を拒否する入居者にはどうして拒否されるのか入居者と話し合い原因を理解し入浴に繋げている	利用者ごと平均週2回の入浴を実施している。入浴時は、心身機能を高め寛げる入浴となる支援に努めている。本人のタイミングで入浴が出来るよう声をかけしており、時間帯枠に限らず入浴対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の決まりはなく、入居者本人にまかせているが快適に睡眠出来る様に室温や照明等を入居者の希望や体調に合わせて調節している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服している薬の種類、効能や副作用については職員全員が把握しており、食後、起床時、就寝前等決められた時間に与薬し内服確認を行っている、また、かかりつけ薬局より情報を得ている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人に役割をもってもらい、朝の掃除、洗濯物の整理、畑の手入れ等その時の体調に合わせてやっていただいている			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望があれば買い物に付き添い、天気の良い日には施設近隣の公園に散歩に出かけたり、商業施設のフードコートや近くのラーメン屋で外食し、周辺観光地にバスを借り切り家族も一緒に行ったりしていたが昨年より行っていない	以前は支笏湖やサーモンパークなどドライブを兼ねた外出が出来ていたが、現状では受診の際に車窓から景色を眺める事や、中庭の野菜畑や花畑の軽作業などで戸外に出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に難しい入居者が殆どだが自分でお金を持たれている入居者もあり、買い物に行った時には自分で清算出来る様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達には何時でも電話が出来る様にしており、手紙もお散歩がてら自ら投函出来る様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、照明、室温等も入居者の希望に合わせて調節して居心地の良い空間にしている、また、施設内はお正月、節分、ひな祭り、敬老会やクリスマス等の季節の飾り付けを入居者と一緒に行ったりしている	回廊式の中心にある中庭は、花畑や野菜畑があり自然を身近に感じられる。事業所内は床暖で暖かく、温湿度管理がされた共有空間は清潔感がある。リビング、ダイニング、畳のスペースなど自由に好みの場所で寛ぐことができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも一人でくつろげるソファがあったり、食堂、談話室、和室があり、入居者がそれぞれ気の合った者同士でお話出来る場所になっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなるべく使い慣れた家具や身の周りの品を持って来ていただいたり家族やペットの写真や自宅で今まで育てていた植物等で今までの生活に近い環境の中で安心して過ごす事が出来る様な支援をしている	利用者ごとに好みの物品を持ち込んでもらい、安心できる環境を整えている。冷蔵庫やテレビ、椅子があり、写真やカレンダーを飾っている。各居室へ壁付扇風機の設置を進めている。床暖も設備し足元の冷えを防止している。加湿器や洗濯物を干すことで湿度調整を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれのお部屋には名札、入居者の写真、家族が作った飾り物等をドア横に付けて自分の部屋だとわかるようにしている、また、トイレも一目でわかるように工夫している		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木 2階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	令和3年11月27日	評価結果市町村受理日	令和4年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600335-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193600335-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が日々家庭的な雰囲気、笑顔で過ごせるように心がけて介護しています。暖かい日は外で職員と畑を作ったり、入居者とともに喜んだりしています。入居者の方の能力に応じた日々の家事を職員とともに楽しんでいます。コロナ禍の為、外出、面会の制限のある中で少しでも入居者の楽しみのため、誕生日や敬老会の行事の他に自分たちで調理をしたり、出前でおいしい物を食べたり、なるべく外部の人に接触しない様に散歩したり、移り行く季節を窓から眺めたりしながら季節を感じる様にしています。入居者の皆様のご家族の心配されたいるので、電話などで近況を知らせたり、お便りで知らせたりしています。入居者様が、笑顔で過ごせるように職員とともに日常を大切に介護しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えた理念に基づき、サービスを提供しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方の訪問や、町内会のお祭りの参加などの交流をしているがコロナの為中止している コロナが納まった後に再開		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメートの会員として近隣の小学校に行ったり、町内会の地域見守りの会議などに出席したりしている 要望があれば町内会他の勉強会に出席している 今はコロナの為中止している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時は包括、市役所、町内会の方々の参加をお願いし意見の交換をしていたがコロナの為書面で、様子を知らせている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の出席など		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束をせず見守りを強化しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する資料を参考にし虐待のないケアをしています。		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については研修等で学んでいます。以前、成年後見人制度を利用されている方がいました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際しての契約時には、本人、御家族に説明をし理解、納得の上、署名をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の方に公表する機会は少ないが、面会の時に意見や要望を聞いています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、書面での会議、その他、色々な機会に職員の意見を聞き仕事に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の規定に従って行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社で行う研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市の開催する研修会には今現在参加していません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談の時など本人の不安なことなどを聞き援助内容の説明をしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、御家族にも話を聞いて、どのように生活してほしいか、又本人がどのように暮らしたいかを聞き要望に添うよう支援していきます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始するとき、一番必要な支援から対応していきます。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることは無理なくしていただき入居者様と職員が共に助け合い生活していきます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙、面会時に日常生活の様子を伝え本人と関わりを持っていただいています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡を進めたり、手紙を書く支援をしています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のプライバシーを守りつつ孤立しないように声掛けをし皆さんとコミュニケーションが取れるように支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談を受けたときは応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護の中で話をよく聞き、本人の意向がなるべくかなえられる様にしている、言葉にならない仕草からや表情からも汲み取るようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様本人の意見や希望を一番に考え毎日の支援をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居の時に今までの生活状況の把握に努めています。又、入居後は会話などから生活歴、好みを把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のアセスメントはもとより、御家族の聞き取りをし、一人一人にどのような支援が必要か話し合い介護計画に反映をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者一人一人の様子や状態などを記録しておりiPadや連絡ノート等で情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添うよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内会やボランティアさんの協力を得て散歩やドライブに出かけていたが今現在、協働していない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様それぞれの、かかりつけ医と連携を持ち本人の希望の医療が受けられるように支援していきます。		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医療を受けている方は、事前に情報を送っているご家族などと通院される方には日常の様子を紙面で知らせている。会えない担当医には日々のアセスメントを持って行ってもらう様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはグループホームでの様子を書面で知らせている、退院される方も病院からの情報をももらうようにしている コロナの為できないが職員が病院にお見舞いに行く		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の話し合いをすることもあるが、体調に変化に合わせて話し合いを進めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習を受けに行ったり、訪問の看護師、医師に様々な事相談したり指導していただいている。薬に関しては薬剤士の意見を聞く		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練をしている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し意向に添った声掛けをする		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見をなるべく尊重し表現できるような声掛け		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた支援ができるように、入居者の話を聞きながらケアプランのサービスに組み込んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個本的には入居者の好みでに合せている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みに配慮しながら、栄養士の献立に添った食事を楽しんでいます。食器のかたづけやテーブル拭きは、できる範囲でお手伝いしていただいています回数には少ないが、調理も職員と行っています			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況に応じた食事を提供しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食、歯磨きの声掛け口腔ケアをしています。状況に合わせて歯科治療をしています			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態にあった介助をしています			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認しながら下剤の投薬や飲食の提供をしています			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居syの体調に合わせて週二回入浴を基本にしていますが、体調が良くないなどの理由があれば清拭などで対応しています			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間の目安はあるがその日の状況に応じて入眠、起床できるようにしている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員服薬にはかかわっており、病名、薬に関しては大体は知っています。薬管理に関してはふよう薬局の薬剤師が管理、アドバイスしてくれます			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた掃除、洗濯ものたたみなどの家事のお手伝いをいただいています			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出などは十分にできないが、グループホームの周りで畑を作ったりして楽しんでいます		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出制限しているのほぼ家族が管理していますが、時々、チラシを見ながらお買い物のお話をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人への電話での交流は常にできるようにしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるように、装飾をし共有空間は常に清潔にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂で思い思いの過ごし方をされています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、入居してからご本人が思い出のあるもの、使用していたものを、持ち込まれています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ることできないことを把握し安全な環境を整えています		



目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームいすの木

作成日：令和 4年 1月 18日

市町村受理日：令和 4年 1月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害の種別や被害の大小によっては事業所内に留まる場合が想定されるが業務継続に係り、特に冬期間の災害備蓄品が不足している。災害時の避難誘導、特に車椅子使用の入居者の避難誘導、対策の強化	法人と連携し、災害備蓄品の見直し、不足分の補充をする。特に冬期間の災害に備え、不十分な停電時の暖房器具等を備える。災害時、入居者全員が速やかに避難できるようにする。	入居者一人一人の身体状況、特に車椅子使用、日中、夜間の時間的なもの、職員の勤務形態等、色々な場合を想定し避難誘導の方法を決めておき、すぐに誘導出来る様に通常の避難訓練とは別に実際に誘導してみる。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。